

# 国際的指導力育成プログラム

## プログラムの目的

国際的指導力育成プログラムは、国際舞台で活躍する高度な人材を政・官・学・民のオールジャパンで育成することを目的とする。

## ディプロマポリシー

2年以上在学し、カリキュラムに基づいて所定の単位を取得し、研究論文を執筆・発表し、合格判定を受けた方に修士(政策研究)の学位を授与します。

本プログラムで、学生が身に着けるべき資質・能力の目標は次の通りです：

- ① 国際関係、国際経済、国際法、外交・安全保障などに関する高度な知識と分析力
- ② 日本の歴史、政治、経済、外交、文化などを深く理解し、論理的に説明できる能力
- ③ 政策課題を分析し、それに対応する合理的な政策を立案・実行する能力
- ④ 特定の課題について必要なデータを収集・分析し、研究論文や政策提言としてまとめ、効果的にプレゼンテーションできる能力
- ⑤ 国際社会の動きや価値観・制度を理解し、英語による交渉を通じて国際社会でリーダーシップを発揮できる能力

## カリキュラムポリシー

### 基本方針

国際的指導力育成プログラムは、豊かな国際経験と高度な知識をもつ教員による指導を通じ、学生に国際関係や国際交渉に関する知識と実行力、また理論と実践をバランス良く統合する能力を身に付けさせます。これにより、分析力、構想力、指導力、発信力、実行力、交渉力を兼ね備え、国際業務をリードすることのできる人材を育成します。

### カリキュラムの構成

本プログラムは平日の夜間および土曜日に講義を実施することで、社会人が働きながら単位を取得できるようになっています。カリキュラムは必修科目、選択必修科目、選択科目から構成されています。また、学生は、特定の政策課題に関し、プログラムで学んだ知識や分析手法を用い、英語で研究論文を執筆し、発表します。

(必修・選択必修科目)

必修科目および選択必修科目では、国際関係の理論、安全保障論、交渉論、外交論などを学び、実際の政策決定や国際交渉の場で必要とされる専門知識、分析手法、実践方法を習得します。また、シミュレーション形式の講義や、多様なテーマについてのオムニバス形式での講義を受け、より実践的な知見と技術を習得します。

### (選択科目)

学生は、選択科目として本学で開講しているほとんどの科目を履修することが可能です。全学的に公共政策に関する基礎知識、及びグローバルに活躍する行政官としての教養を身に付けるための科目、論文執筆にかかる英語によるアカデミックライティングを強化する科目、論文執筆にかかる学術的な倫理教育を行う科目やワークショップなど、単なる知識の習得にとどまらない、社会においてリーダーとして活躍できる、バランスの取れた人材を育成するためのカリキュラムを構成し、提供しています。但し、多くの講義は昼間に開講されているので、本プログラムの学生は、自身の日程を調整するなどの工夫が必要になります。

### (その他)

このほかにも、公共政策に関する基礎知識やグローバルに活躍する行政官としての教養を身に付けるための科目や、英語によるアカデミックライティングのための科目などが開講されています。

### 教育・学修方法にかかる方針

本プログラムでは、修了に必要な 30 単位のうち、少なくとも 16 単位は実習、4 単位は演習科目となっており、学生は講義によるコースワークのほか、演習や実習形式での授業を受けます。

### 成績評価

成績評価は各科目においては、出席・授業への貢献度、試験・レポート提出等を考慮した上で、知識の習得・理解及び実践的なスキルを相対的に評価します。また、研究論文についての成績評価は、①具体的な証拠を提示しつつ、論理的に議論を展開できていること、②政策的あるいは学術的に重要性の高い内容を扱っていること、③研究課題に対応した結論が導き出されていること、④先行研究や既知の事実と比較してオリジナリティがあること、⑤実施可能でかつ有効な政策提言がなされていること、などを基準に行います。

## アドミッションポリシー

### 求める学生像

本プログラムは、政府、公共機関、メディア、民間企業などで国際業務に携わる幹部および幹部候補職員を対象としています。また、入学までに一定の英語力と国際関係に関する学部レベルの知識を習得し、かつ関連分野での職務経験を 5 年程度以上有することが望

まれます。

### 審査方法及び審査基準

#### **【第1次審査】**

出願書類に基づく審査を行います。審査は、これまでの職務経験、推薦者2名による評価内容、大学の学位、学習内容および成績、研究計画の重要性・独創性、政策課題との関連性などを踏まえつつ、総合的に実施します。

#### **【第2次審査】**

第1次審査の合格者に対してオンライン面接を行います。書類選考で必要と判断された者には課題提出を課す場合があります。面接では決められた設問に対する受け答えをしていただき、回答内容の論理性・的確性や、目的意識、学習意欲、修了後のキャリアプランの明確さ、英語によるコミュニケーション能力などを基準に審査します。

カリキュラムマップ：国際的指導力育成プログラム

ディプロマポリシー①

ディプロマポリシー②

ディプロマポリシー③

ディプロマポリシー④

ディプロマポリシー⑤

区分	科目番号	科目名	①国際関係、国際経済、国際法、外交・安全保障などに関する高度な知識と分析力	②日本の歴史、政治、経済、外交、文化などを深く理解し、論理的に説明できる能力	③政策課題を分析し、それに対応する合理的な政策を立案・実行する能力	④特定の課題について必要なデータを収集・分析し、研究論文や政策提言としてまとめ、効果的にプレゼンテーションできる能力	⑤国際社会の動きや価値観・制度を理解し、英語による交渉を通じて国際社会でリーダーシップを発揮できる能力
区分I 必修科目	GLD4000J	国際関係・外交政策論文演習			○	○	
区分II 選択必修科目	GLD1010J	外交アカデミーI	○	○	○	○	○
	GLD1020J	外交アカデミーII	○	○	○	○	○
	GLD2100J	国際関係の理論と研究方法	○				
	GLD2300J	国際法	○				○
	GLD2410J	国際経済交渉論		○	○	○	○
	GLD2420J	経済政策分析	○				○
	GLD2430J	応用国際金融論	○		○	○	○
	GLD2500J	外交戦略論		○	○	○	○
	GLD2510J	外交交渉論		○	○	○	○
	GLD2600J	安全保障論	○				○
	GLD2900E	Principles of Effective Communication		○		○	○
	GLD3100E	Seminar on International Relations Theories and Research Methods	○	○	○	○	○
	GLD3110J	国際関係・外交シミュレーション			○	○	○
	GLD3900E	Effective Communication for Global Leaders		○		○	○
			情報と安全保障	○		○	
区分III 選択科目	MOR1100J	政策科学のためのデータサイエンスと情報数理 I			○	○	
	MOR2100J	政策科学のためのデータサイエンスと情報数理 II			○	○	
		上記以外の授業科目	○	○	○	○	○